研究・調査報告書

<table>
<thead>
<tr>
<th>報告書番号</th>
<th>担当</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>207</td>
<td>准教授医学部社会医学講座福祉保健医学部門</td>
</tr>
</tbody>
</table>

題名（原題/訳）
Alcohol craving in outpatients with alcohol dependence: rate and clinical correlates.
アルコール依存症の外来患者におけるアルコール渇望の状況: その発生率と臨床所見との相関

執筆者
Yoon G, Kim SW, Thuras P, Grant JE, Westermeyer J.

掲載誌（番号又は発行年月日）
Journal of studies on alcohol.2006 Sep;67(5):770-7

キーワード
アルコール依存症、アルコール渇望、禁断症状

要 旨
背景:
アルコール依存症患者において、アルコールに対する渇望は重要な所見であり、断酒を妨げる重大な原因である。しかし、アルコール依存症患者で、どの程度の頻度で渇望症状があるのか、またその重症度についてはよくわからない。

目的:
退役軍人用クリニックの外来患者においてアルコール依存症として登録された患者で、アルコール渇望症状の発生率と重症度を評価した。またアルコール渇望症状とアルコール依存の重症度や精神状態などの臨床所見との相関も解析した。

方法:
退役軍人のための中毒患者用クリニックにアルコール依存症として登録された101人の外来患者を対象とした。渇望症状はPennアルコール渇望症状スケール（Penn Alcohol Craving Scale）を使用して判定、またアルコール依存の重症度および臨床所見は、中毒症重症度指数（Addiction Severity Index）、績時的遅れ法（Timeline Fallback method）等で評価した。アルコール渇望症状は3つのグループ（軽症、中等症、重症）に分け、3群間における個人の特性や臨床所見の違いを比較した。重回帰分析を用いて、渇望症状とその危険因子の関連を検討した。

結果:
アルコール渇望症状の重症度の有病率は軽症が46％、中等症が29％、重症が25％であった。この3群を調整なしで比較すると、重症群は有意に、最近30日以内のアルコールスコア（30日以内の飲酒回数、飲酒量、多重飲酒の回数）が高く、過去1年以内の重症のアルコール依存である率が高かった。重回帰分析では、アルコール渇望症状はアルコール依存症の重症度、禁断症状、うつ症状と関連があり、渇望の50％はこの3項目（Partial R²アルコール依存症の重症度（42％）、禁断症状（5％）、うつ症状（3％））で説明されることを明らかとした。

まとめ:
外来で治療を受けている患者のアルコール渇望症状には大きな幅がある。またアルコール渇望の重症度は、アルコール依存症の重症度や、禁断症状、うつ症状に直接影響される。